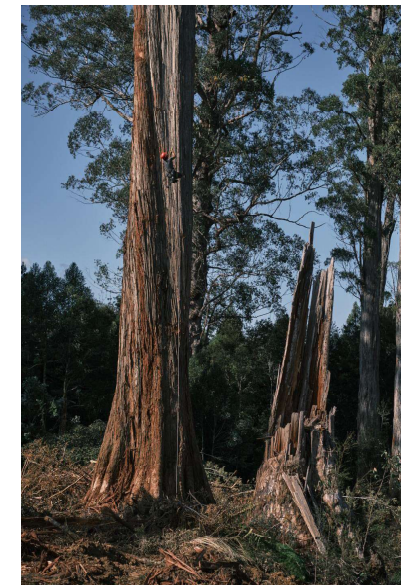


ジェニー・ウェバー ボブ・ブラウン財団キャンペーン・マネージャー

Jenny Weber

Bob Brown Foundation Campaign Manager



導入（はじめに）

- 2019年9月に起きたオーストラリアの森林火災の影響についてお話しします。
- タスマニアの合板用木材は、大きな議論を呼んでいる状況で調達されたものであり、紛争を抱えている木材供給です。
- 絶滅危惧種の生息地は、タ・アン・タスマニア向けに伐採され、脅威に晒されています。
- 近絶滅危惧種に指定されているオトメインコの生息地は、タ・アン・タスマニア向けに伐採され、脅威に晒されています。
- これには、オーストラリアでもっとも大きな冷温帯林であるタカイナ／ターカインを含みます。
- タスマニア森林協定は森林を守り、サプライチェーン上における紛争木材の混入を避けることに失敗しています。
- 結論として、タスマニアにおける状況は改善しておらず、近年の火災と自然林を保存することの価値の増加により、これらの森林を伐採するのではなく保護することが喫緊の課題となっています。
- 連邦政府やタスマニア州政府は環境価値の保護に失敗しており、企業はこれらの木材を断る責任を負っています。

オーストラリアの森林火災と

開発が及んでいない天然林がもつ重要性の高まり

- この夏（北半球の日本では冬にあたる）にわたしたちが経験したオーストラリアの森林火災は規模も激しさも前例にないものでした。多くの人の命、10億頭を超える野生動物の命を奪い、家屋や人々の生活に多大な被害をもたらしました。生物多様性や気候危機のリスクは頂点に達しました。
- 火災はまた、開発が及んでいないオーストラリアの天然林がもつ重要性をあらためて高めたともいえます。野生動物たちの命を支え、気候変動や水害の影響を緩和してくれるからです。
- オーストラリアの天然林は野生動物の半分に当たる生き物の棲み処を提供し、わたしたちには飲み水を供給してくれます。また、もっとも大きな炭素貯蔵庫の機能を果たしています。
- こうした森林がもつ安定性、回復力が、わたしたちが気候変動とたたかい、また適応するのを助けてくれることを知っています。
- いまや、天然林の保全管理や復元を改善しその伐採を終結させるべきときなのです。

気候非常事態における開発が及んでいない 天然林がもつ重要性

- オーストラリア南東部の冷温帯天然林は世界でもっとも炭素蓄積密度の高い森林のひとつです。タスマニアの開発が及んでいない天然林は保護され、伐採などの攪乱を受けずに生長することが許されてはじめてその価値が発揮されるのです。
- オーストラリアのオールドグロス林は伐採を受けた森と比べると50パーセント以上も炭素貯蔵が大きいのです。
- 方程式はとても単純です。木が大きければ大きいほどそこに蓄えられる炭素もまた大きいからです。



タスマニアの天然林

- タスマニアには古代からつづく生物学的にユニークなユーカリの森林が広がっており、生物学的に希少で、とても古く、とりわけ巨木に生長する。タスマニアにはこれらの森林に多くの動植物を擁している。

タスマニアの森林に由来する 合板製品がもたらす紛争

- タスマニアの天然林は現在、伐採によって驚くべき速さで破壊が進んでいます。
- タ・アン・タスマニアとシンヤン社に提供される木材は非常に多くの問題をはらんでいます。

タ・アン・タスマニアへの木材供給は依然として、非常に多くの問題をはらんでいる

タスマニアでおこなわれている伐採は …

- 成熟した老齢樹（オールドグロス）林、温帯性雨林、天然林を破壊しています
- 温室効果ガスの排出源をつくりだし、大変に重要な開発が及んでいない自然を奪っています
- 絶滅危惧種、近絶滅危惧種をふくむ野生動物の生息地を破壊しています
- 地域社会に社会的な軋轢をもたらしています

国際的な持続可能な開発目標(SDGs)をないがしろにした合法的な伐採

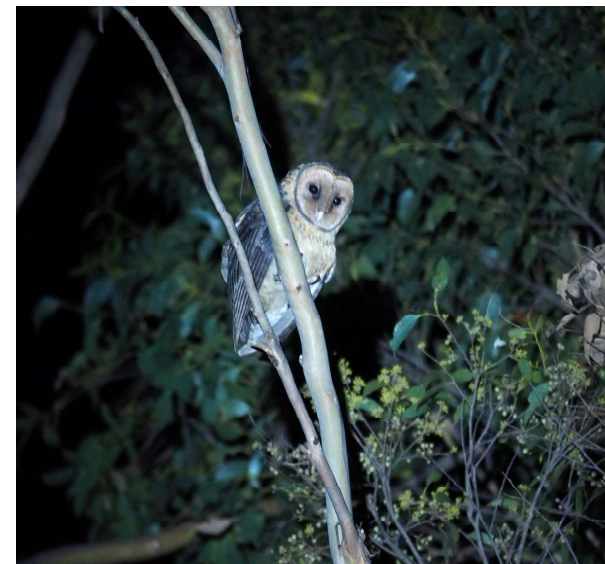
- 今日起きているすべての問題は、生物多様性、気候、野生生物の生存、水の安全、環境保護に悪影響を及ぼします。
- タスマニア州およびオーストラリア連邦法には欠陥があり、タスマニアでの伐採をつづけることが可能にしています。
- 伐採計画は政府の伐採機関（logging agency）により承認されており、絶滅危惧種を保護することを将来的に保証することを装い、そうすることで絶滅危惧種に関する法律にある種の免除を与えるという抜け穴を介しています。
- 伐採中および伐採後に十分なチェックは行われず、また専門家のアドバイスも無視されています。

タスマニアの森林には平和は存在しない

- ボブ・ブラウン財団は非政府の環境保護組織です。国際的な環境保護運動のリーダーであるボブ・ブラウンとクリスティン・ミルンが財団とともにキャンペーンをおこなっています。
- わたしたちはオーストラリアの天然林伐採の停止に向けて取り組んでいます。天然林伐採からすでに生育している植林木利用への早急なる移行（トランジション）が可能です。
- 多くの批判を浴びながら伐採がおこなわれているタスマニアではさまざまな軋轢が生じており、懸念をしめす市民たちは抗議の声をあげています。

持続可能な開発に向けた国際的な目標(SDGs)

- “自然生息地の劣化を抑制し、生物多様性の損失を阻止し、2020年までに絶滅危惧種を保護し、また絶滅防止するための緊急かつ意味のある対策を講じる”
(ターゲット 15.5 生物多様性と自然生態系の保護)
- タスマニアから天然林木材を調達しているすべての企業はこの目標に違反しています。
- 絶滅危惧種はタスマニアの天然林では保護されていません。さらに悪いことに、タスマニアでの天然林伐採はこれらの種を絶滅に追いやる可能性があります。



タ・アン・タスマニア

- タ・アン・タスマニアはタスマニアの巨大な伐採企業です。持続可能なレベルを超えた伐採を進めることに大きな影響をあたえています。
- オールドグロス林、絶滅危惧種・近絶滅危惧種の生息地、非常に重要な炭素貯蔵をもつ天然林から産出された木材の提供を積極的に受け入れています。

シンヤン

- 悪名の高いシンヤン社がタスマニアに進出し天然林から木材の供給を受けることにわたしたちは驚愕の念を禁じえません。
- 2018年にはじめて企業登録された、パトリアーク・アンド・サンズ(Patriarch and Sons)社は州北部で回転式単板切削工場を稼働させる計画を発表しました。
- パトリアーク・アンド・サンズ社はシンヤン社の幹部が100%所有しています。

シンヤン社のタスマニア進出

- パトリアーク・アンド・サンズ社は天然林由来の木材を使って単板をつくり、東マレーシアのサラワク州で製品化したボード製品は日本に輸出される予定であると述べています。
- シンヤン社はすでに2018年からタスマニアからの天然林木材を輸入しているとわたしたちは考えています。
- シンヤンがタスマニアに進出する目的はPEFC認証のお墨付きを得ることですが、この森林認証による木材は社会的な紛争や環境破壊から無縁というわけではありません。

タスマニアの林業機関、FSCに二度も失敗

- サスティナブル・ティンバー・タスマニアはFSC認証を得ようとしたが、二度とも失敗しています。
- 環境保護グループがこぞってその認証申請に反対しているのは、サスティナブル・ティンバー・タスマニアが高い保護価値の諸要求を満たすことができないからです。
- ボブ・ブラウン財団と原生自然協会（ウィルダネス・ソサエティー）は、FSCによる監査に2014年、2019年の二度参加し、現在の森林管理システムに内在する根本的な誤謬について詳細な情報と有無を言わせぬ証拠を提出しました。

PEFC森林認証 /

オーストラリア林業規格(Australian forestry Standard: AFS) の瑕疵

- 絶滅危惧種・近絶滅危惧種の生息地の破壊
- オールドグロス林の伐採
- 気候変動を悪化させる伐採施業

タスマニアの野生動物たち

- タ・アン・タスマニアが木材の提供を受けている森は、世界的にも唯一無二の動物群・植物群にとって重要な生息（生育）地です。
- サスティナブル・ティンバー・タスマニアは、絶滅危惧種の希少種および絶滅危惧種がかなりの密度で存在しているエリアを伐採しています。
- わたしたちのレポートでは、タスマニアでしかみられない、生存をその天然林に依存している種をふくめて、わずかに残された絶滅危惧種の悲惨な状況について概説しています。
- より生息地が伐採されている動物種の一部を取り上げる。
- タスマニアン・デビル、タスマニアン・メンフクロウや世界最大の淡水棲ザリガニのタスマニアオオザリガニなどです。



近絶滅危惧種のオトメインコ(Swift Parrot)：

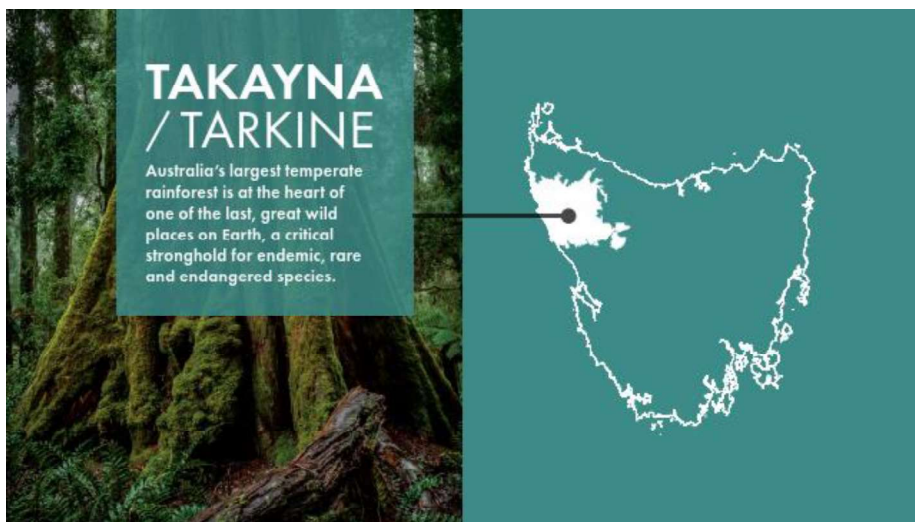
世界最速のオウムの生存に必要な生息地が急速に失われている

- 絶滅危惧種に指定されているオトメインコの営巣地や餌場となる可能性のあるすべての森は、これらの種が生存していくために重要な生息地です。
- サスティナブル・ティンバー・タスマニアはそうしたオトメインコの重要な生息地を伐採しつづけています。
- オトメインコは近絶滅危惧種に指定されおり、野生下で絶滅するリスクが高いといわれています。
- サスティナブル・ティンバー・タスマニアによるオトメインコの生息地の管理は、オトメインコの重要な生息地喪失を直接的に招来し、生息数の減少を引き起こしていることをしめす数多くの根拠が存在しています。
- タスマニア州政府に提出された専門研究者たちの勧告を無視する形で、質が高い生息地と記録されているオトメインコの棲み処が伐採されつづけています。
- 国際自然保護連合(IUCN)は、オトメインコを近絶滅危惧種に指定するときに、オトメインコを支えているエリアはすべて、確実な保全管理のもとにおかれなければならないと勧告しました。



オールドグロス林

- ・サスティナブル・ティンバー・タスマニアはタスマニアのオールドグロス林を伐採し、タ・アンはその伐採に由来する木材の提供を受けています。



ターカイン

- ・タスマニアのタカイナ／ターカインはオーストラリアでもっとも広大な温帯雨林で、地球上で最後に残された豊かな原生自然の中核となっています。ターカインは、固有種、希少種そして絶滅危惧種にとっての重要な砦となっています。
- ・ターカインで国立公園として保護されているのは全体の4パーセントにすぎない。
- ・86パーセントは伐採可能となっています。
- ・タ・アン・タスマニアはターカインで伐採されている木材をつかっています。伐採計画に基づいてターカインから産出される木材の提供を受けることになっています。
- ・タカイナでの伐採は手付かずの温帯雨林や高木ユーカリの森、絶滅危惧種や希少な固有種の重要な生息地を破壊しつづけています。
- ・伐採の脅威を受けているターカインの森林は、専門家たちによる独立した検証で世界遺産と同じ価値を有していると認められています。
- ・オーストラリア世界遺産委員会では、タカイナの顕著な国家的遺産の重要性が認められています。また同委員会は、タカイナの温帯雨林は古代の Gondwana 大陸とのつながりをもつ植物相、とくにその地衣類や化石は古代オーストラリアの植物相とその進化の歴史を語る情報をあたえてくれるために重要であると認識しています。タカイナでみられる多くの植物は、南極ブナ(myrtle)、革の木(leatherwood)、そしてセロリトップパイン(celery-top pine)などの Gondwana 時代以来の植物です。



ターカインの保護

ボブ・ブラウン財団はターカインの森を差し迫っている伐採から救済し、保護するために伐採現場の最前線で抗議の活動をおこなっています。



将来的木材生産可能性森林林

(Future Potential Production Forest: FPPF)

- FPPFとは、かつて高い保護価値を持つ森林として保護が法律によって決まったものの、いまや、州政府に手によってその決定が覆され、2020年4月から伐採のリスクを受けはじめる森林のことです。
- タスマニア森林協定(Tasmanian Forest Agreement: TFA)は水泡に帰しました。
- 新しい政権がスタートしたときに、保護地(reserves)と約束されていた森林を将来的木材生産可能性森林林へと変える法律を可決してしまったのです。